宝生能楽堂　開場四十周年記念

宝生会　秋の別会能　第二部

令和元年十月二十七日（日）
開演　十六時
開場　十五時十五分
於　宝生能楽堂

16:00

天鼓

シテ　後　佐野　由於
　　前　小倉　敏克
ワキ　工藤　和哉
呼出・盤渉　間　深田　博治
大鼓　柿原　光博
小鼓　幸　清次郎
笛　一噌　隆之
後見　田崎　隆三
　　中村孝太郎
　　佐野　登
地謡　金野　泰大
　　佐野　弘宜
　　亀井　雄二
　　小林　晋也
　　藤井　雅之
　　三川　淳雄
　　亀井　保雄
　　渡邊　茂人

17:35

水汲

野村　万作

中村　修一

〈休憩十五分〉

18:10

鞍馬天狗

ワキ　野口　敦弘
大鼓　佃　良勝
小鼓　住駒　幸英
太鼓　小寺　佐七
笛　一噌　幸弘
ワキツレ　野口　能弘
〃　吉田　祐一
天狗揃　間　野村　萬斎
〃　野村太一郎
地謡　金森　良充
　　東川　尚史
　　澤田　宏司
　　小倉伸二郎
　　辰巳満次郎
　　今井　泰行
　　金井　雄資
　　高橋　亘
後見　宝生　和英
　　山内　崇生
〃　出雲路　啓
〃　内藤　飛能
〃　内藤　端駿
〃　藪　克徳
〃　藪　俊太朗
〃　高橋　憲正
〃　稲田　海音
〃　和久荘太郎
〃　水上　優
〃　野月　惺太
〃　野月　聡
花見　野月　惺太
子方　水上　嘉
天狗　武田　孝史
シテ　後　前田　尚廣
　　前　小林与志郎

終演予定　十九時二十分頃

演目の解説

能「天鼓　呼出・盤渉」（てんこ）

唐土の物語です。ある時天より鼓の降つて来る夢を見た母に生まれた天鼓は、その後本当に天鼓は、少年が打つて来たれ鼓と共に育ちます。天鼓、帝はこれを宮中に召し上げ、逃げようとしたが誠に妙なる音なので、ましたが、天鼓は呂水に沈められてしまいます。ところがこの鼓誰が打つても鳴らず、帝は天鼓の父「王伯」を呼んで打たせると見事に鳴り、感帝は、王伯に天鼓の霊を弔う事を約束し、管弦講で弔つている天鼓が現れ、鼓を打つて戯れ、喜びの舞を舞います。小書「呼出」は、常は前シテが登場して謡う、「一声、ワキ、下歌、上歌」を省略して、サシ、シテを呼出し、そこが幕に向かつてシテの登場となる演出です。

狂言「水汲」（みずくみ）

娘（いちゃ）が野中の清水で洗濯をしていると、そこへ新発意（見習僧）が通りかかる。主（おかね）が茶の水を汲みに寄せてくいるたのだが…。新発意は、小歌に思いを寄せる世間の流行歌謡。叙情性あふれる演目です。

能「鞍馬天狗　天狗揃」（くらまてんぐ）

鞍馬寺に花見に赴いた山伏は、同じく花見に訪れた稚児達と東谷の僧一行に出会い、牛若と交わすこしとを明かし、源氏の世を再興をすることを約束して去ります。

次回予告

春の別会能

三月二十二日（日）
十二時始

鷺　小倉　敏克

隅田川　當山　孝道

道成寺　辰巳大二郎

文化庁文化芸術振興費補助金
（舞台芸術創造活動活性化事業）
独立行政法人日本芸術文化振興会